

ハツ場ダム検証における 河川整備計画相当の目標流量について

平成23年6月29日

国土交通省 関東地方整備局

ハツ場ダム検証における河川整備計画相当の目標流量について

- 「ダム事業の検証に係る検討に関する再評価実施要領細目」において、複数の治水対策案は、河川整備計画において想定している目標と同程度の目標を達成することを基本として立案することが規定されている。
- 利根川水系は、「河川整備計画が策定されていない水系」に該当するため、ハツ場ダムの検証に当たっては、河川整備計画相当の目標流量を設定し、整備内容の案を設定して検討を進める。

【参考】

「ダム事業の検証に係る検討に関する再評価実施要領細目」(抜粋)

個別ダムの検証においては、まず複数の治水対策案を立案する。複数の治水対策案の一つは、検証対象ダムを含む案とし、その他に、検証対象ダムを含まない方法による治水対策案を必ず作成する。検証対象ダムを含む案は、河川整備計画が策定されている水系においては、河川整備計画を基本とし、河川整備計画が策定されていない水系においては、河川整備計画に相当する整備内容の案を設定する。複数の治水対策案は、河川整備計画において想定している目標と同程度の目標を達成することを基本として立案する。

ハツ場ダム検証における河川整備計画相当の目標流量について

- 河川整備基本方針は、長期的な観点に立って定める河川整備の最終目標であり、1級河川では、重要度に応じて計画規模を年超過確率1/100～1/200として定めている。
- 一方、河川整備計画は、河川整備基本方針に沿って中期的な整備の内容を定めるものであり、一般的に、計画対象期間をおおよそ20～30年間にわたる目安として策定される。いわゆる直轄管理区間の河川整備計画では、戦後最大洪水等を安全に流下させることを目標として、目標流量を設定していることが多い。
- 利根川の場合には、S22年9月のカスリーン台風が戦後最大洪水であり、大きな被害が発生した近年の洪水に対する再度災害防止という観点からは本来この洪水規模を目標とすべきであるが、仮に同洪水を流下させることを目標とすると、目標流量は約21,100m³/s^{※1}となり^{※2}、利根川の現在の整備状況を考慮すれば20～30年間にその目標を達成するのは不可能である。

※1 日本学術会議河川流出モデル・基本高水評価検討等分科会第9回資料12

※2 利根川水系河川整備基本方針においては、八斗島地点の基本高水のピーク流量は22,000m³/s

ハツ場ダム検証における河川整備計画相当の目標流量について

○このような状況を踏まえ、下記の考え方にに基づき、河川整備計画相当の目標流量を検討した。

- ① 少なくとも他の直轄河川における戦後最大に相当するレベルを目標対象とし、かつ、利根川の重要性を考慮して、設定する。

	流域			想定氾濫区域		
	総面積 (km ²)	総人口 (人)	一般資産額 (百万円)	総面積 (km ²)	総人口 (人)	一般資産額 (百万円)
全国計	240,620	78,737,696	1,418,124,032	28,939	52,317,772	964,863,380
全国平均	2,208	722,364	13,010,312	265	479,980	8,851,958
利根川水系	16,840	12,794,244	213,561,468	4,167	8,442,091	138,172,784

出典：国土交通省HP http://www.mlit.go.jp/river/toukei_chousa/index.html#kasen

- ② その際、現在実施中の主なプロジェクト(堤防強化、稲戸井遊水地調節地化、河道掘削等。今回の検証対象であるハツ場ダムを含む)等を進めることにより、20年から30年間に効果を発現することが可能な概ねの水準を考慮することが必要である。

この考え方にに基づき検討を行った結果、河川整備計画相当の目標流量を17,000m³/s^{※1}とする。

※1 昭和22年9月洪水において、八斗島上流の3地点においてピーク流量付近の流量観測がおこなわれており、この観測流量を流下時間の時間差を考慮して重ね合わせた八斗島地点における最大流量の推定値。なお、氾濫等により相当量の浸水が生じていたと推定される状態の流量。

また、同洪水では、利根川本川の埼玉県加須市(旧大利根町新川通地先)において破堤し、氾濫水が東京都東部低地に達するなど、甚大な被害が生じた。